

シンポジウム報告

開会のあいさつ

名和 小太郎†

本シンポジウムは、「情報知識学会」の秋期セミナーとして、『テキスト・データベースの著作権』について、1992年12月10日（木）、凸版印刷（株）本社で開催されたものです。（文責 本論文誌編集委員会）

開会

たいへんお待たせいたしました。きょう、ここに書きましたような次第で、これからシンポジウムを始めさせていただきます。

実は、その前にちょっと時間をお借りしまして、会員外の方もお招き、ご参加いただいておりますので、若干情報知識学会の宣伝をさせていただきます。本学会がどんなことをやっているかと申しますと、皆さんのお手元にお配りした資料の中にニューズレターがありますので、これをご覧いただきたいと思います。

学会の趣旨その他は省略いたしますが、こんなことをやっているなということについて、関心をお持ちいただければと思います。たまたま情報知識学会という看板の下に集まった人間を眺めてみたら、データベースというキーワードを共通で持っていたということでありまして、それで、比較的データベース絡みの議論が多々ございます。

たぶん、ほかの類似のといえますが隣接の学会と多少違いますのは、テキスト・データベースに関心を持っている会員が多く、つまり、社会科学系、人文科学系の会員が、工学系、理化学系の会員と同じように活躍しているという体質を持っております。もし、きょう新しくここにおみえになった方が私どもの仲間になっていただければありがたいと思います。

早速ですが、本日ここでやります「テキスト・データベースの著作権」ということについて、その趣旨を申し上げたいと思いますが、実はあとでご紹介いたしますように、テキストデータベースにつきまして、アカデミック・ユースの世界でもかなり

いろいろなことが進んでまいりました。

そうした仕事を自由に進めるにあたり、著作権がいったいどうなっているのかという問題が会員に出てまいりました。そういうことでありますので、ひとつ、この問題に関心のある者が寄って議論してみようかということになりまして、きょうの会を開いたわけです。

普通は、パネルディスカッションといいますと、パネリストのほうは、たぶんフロアの方よりいろいろなことをよく知っておられまして、然るべき意見がいえるはずなんですが、実はきょうはそうではございません。この表題に「テキスト・データベース」と「著作権」の2つのキーワードがあるといえますと、ここで発表するメインの研究者はテキスト・データベースについてはそれなりの自信を持たれておりますが、著作権のほうは素人であります。むしろフロアの皆様方のほうが、実はこうお顔を拝見いたしますと、ずっとお詳しい方がいらっしゃるのではないかと思います。

それからもう1点。このシンポジウムはあくまでも、当初、アカデミック・ユースということで計画いたしました。しかしながら、アカデミック・ユースということで、いつまでも世の中から、世の仕来りから浮いているということでもいけないのではないというのが私どもの認識であります。出来れば、実際にビジネスをやっている方々のお考えも併せてお聞かせいただきながら、われわれの考えをまとめていきたいと思ひまして、さきほど、いちばん初めに申し上げましたように、会員以外の方にもお声をかけさせていただいたまいいたします。

したがいまして、きょうはここでAかBかという

†新潟大学

ような、あるテーマについて討論、口論をするというのは趣旨ではありません。いったいどこにわれわれの従うべき秩序があるのかということを探し、そのために情報を出し合おうということで、オープンにして皆様方の意見も聞きたいというような趣旨で開催いたしました。多少はといいますか、あるいはかなり素人くさい議論があらうかと思いますが、そのへんはご容赦いただいて、あとで、むしろ積極的にきょうご参加の皆様方からいろいろお教えをいただければと思います。

本日の進め方ではありますが、お手元にすでにお配りしてありますプログラムに従って進めさせていただきたいと思います。3人の報告者がそれぞれ報告させていただいたあとで、お2人の方からコメントをいただき、いったんお休みをいただきまして、皆様方から自由にご発言を願うという形にしたいと思います。

きょうの第一の報告者の長瀬さんは、テキスト・データベースの構築につきまして、海外で、あるいは日本で活躍されている方で、総論的な現状、アカデミック・ユースの世界における現状ということをご紹介いただけるとのことです。

それから、2番目の安永先生には、どちらかというところ、プロダクションといいますか、データベースの制作サイドの問題点についてのご報告がいただけるかと思います。

それから、内田先生には、もちろん制作にもかかわるかと思います。出来上がりましたデータベースの流通と申しますか共同利用といいますか、そういうことについてのご発言がいただけるものと理解しております。あまり司会者がゴチャゴチャ申し上げますのも時間を取るだけの話でありますので、早速、第一の報告者の長瀬先生からご報告を願うということにしたいと思います。